

## 令和2年度 第2回 コーディネーター部会 記録

日時：令和3年1月22日（金）10:00～11:20

場所：刈谷市役所 804 会議室

出席者（市職員以外は、オンライン出席）

団体名・役職等	氏名
愛知教育大学 教授	大村 恵
一般公募	畑 和子
一般公募	大野 裕史
刈谷市自治連合会	深谷 晴紀
文化工房かりや 代表	久保田 富士子
刈谷市ボランティア連絡協議会 副会長	矢田部 寿子
株式会社おたより 代表取締役	塚本 裕晶

事務局

所属	補職名	氏名
市民活動部市民協働課	協働推進監兼市民協働課長	石川 領子
市民活動部市民協働課	協働推進係長	酒井 武士
市民活動部市民協働課	主任主査	下島 大樹
NPO法人ボランタリーネイバーズ	副理事長	三島 知斗世
NPO法人ボランタリーネイバーズ	協働コーディネーター	鈴木 孝廣

## 1 開会

- 定刻になり、市民協働課協働推進係長が開会を宣した後、大村部会長より以下の旨の挨拶を行った。
- ・ コロナ感染拡大で、初めての Zoom での会議となった。大学では Zoom を推奨していないためタブレットで参加するが、通信状況があまり良くないので、その点ご了承いただきたい。

## 2 議題

### (1) アンケート結果について

<事務局からの説明骨子（資料 p 1、資料 1 を基に）>

- ・ 市民ボランティア活動センター登録団体 486 団体に送付、192 団体から回収（回収率約 40%）。
- ・ p.1 の（3）活動場所：公共施設、特に屋内での活動が多く、コロナの影響は大きいと考えられる。
- ・ p.2 の〈問 1〉の表：3月～6月ではイベントや定期的な活動の中止がともに 74%。9 月以降は、定期的な活動の中止が 35%までに回復。状況に合わせて活動形態を変えながら再開している。収入の減少などは依然として厳しい状況。
- ・ p.2 の主な意見：ア:大人数が集まるイベント>地区行事の大半が中止。エ:定期的な活動>利用者の訪問が制限、イ:イベント自粛で、取材や放送作品ができない。カ:活動場所>利用できない。キ:収入の減少>イベントの中止、企業寄付の減額に伴う収入減。ケ:活動意欲>活動ができないことで活動の意欲がそがれる、前向きな活動がしづらくなった等。様々な形で影響が出ている。

- p.4 の〈問2〉：資金・物資・組織運営いずれも 20%前後の団体が支援を必要。資金>会場費の増加、収入の減少で固定費の支払いが厳しい。物資>コロナ対策のマスク等の支給、オンライン機器の供給。組織運営>正確な情報や他団体の情報共有、IT 活用研修等が求められている。
- p.5 の〈問3〉：広報のサポートが最多(3年前と同様)。オンラインの会議・講座のサポートも多い。ア:広報>活動を知ってもらうためのちらしやウェブサイト、映像の作成支援。イ:協働・連携>様々な分野との協力への支援。ウ:オンライン>Zoom 等を活用した会議へのシフトの支援。エ:企画>今後の事業企画の相談、ニューノーマルの活動アイデアの情報提供。カ:その他>助成金のタイムリーな情報発信。
- p.7 の〈問4〉：ア&イ:オンライン活用>オンラインを活用した会議やイベントの実施。ウ:感染対策>3密の回避。エ:活動のアレンジ>文化祭の中止を受けて作品のパンフレットを作り全戸配布。
- p.8 の〈問5〉：ア:継続への不安>実施しなくても良いのではという声。イ:参加者・会員等の減少>活動の減少により会員が減少。オ:活力の低下>交流がないので活力が出ない。ス:活動の継続>役目を終えたと思う。など今後の活動を改めて見直す機会となっている団体が多い。

### ＜質疑応答＞

委員：各設問の「ア」「イ」等の分類は、意見の多い順か？

事務局：代表的な回答は最初の方にもってきて、内容が同じものは重ねている。また、団体によって受ける影響が異なり、順番と影響の軽重は必ずしも一致しない。

委員：問3で、感染症の影響に関わらずと聞いているが、オンライン化は、感染症の影響でということという認識でよいか。

事務局：感染症の影響からの回答と、そうでない理由からの回答が含まれていると考えられる。アンケートのタイトルが感染症の影響とあるので、それを考慮して回答した団体が多いかもしれない。

### ■ オンライン化への支援

部会長：このアンケートをどう活かしていくかを考えたい。今のところ、事務局では結果を市民向けに公開したり、市民が集まる場で話し合ったりする予定はないとのことだった。コロナ禍でどんな困難があるかは、議論できる場が必要ではと思うが、ご意見をお聞きたい。

委員：問4、5を見ると、3密を避けるためにIT を使っていることがわかる。自分もオンラインで会議をするようになり、名古屋や東京の講座にも参加しやすくなった。これはコロナが終わっても継続すると思う。そこから考えて、オンライン会議や講座を主催する側への支援が必要になると思う。今困っていてお金がほしいといったニーズもあるが、他方で、これからの活動にオンラインの力を借りていく方向に対して、不慣れな人への支援があるとよい。

部会長：オンラインの会議、講演会を主催する側への支援という話ですね。この点に関して、市民ボランティア活動センターでの取り組みはどうか。

事務局：ボラセンは感染症対策しながら施設貸出をしている。加えて、ボラセンでオンライン会議がしやすいように、来年度の予算で、無線ルーターと集音マイクを備品としてセットする予定である。こうしたハード面の支援の他、ソフト面では、Zoom オンラインの使い方講座や、オンラインイベントの開催もしてきた。

部会長：夢ファンドの動画作成もしていただけるとよい。

事務局：今年度、夢ファンドとしても事業を実施した団体に実績報告の動画を作成してもらっている。自力で難しい団体はサポートする。今後は、実施中の事業の様子を動画にして広報等に活用できるとよいと思う。

### ■ 活動継続に関わる相談等の支援

委員：問5、事業の継続への不安、参加者等の減少等が挙がっている。今も緊急事態宣言が出ていて、

活動が中止になることも繰り返されると思われる。資金的な心配もあり、ボランティア活動が潰れてしまわないか心配。資金・物品・運営の支援が必要という声に対して、できることはないものかと強く感じる。

事務局：コロナに対する支援の必要性は色々あるが、本部会としては、まちづくりコーディネーターがどんな支援ができるかを検討していくことになる。その中でも組織運営の部分やオンライン化の支援、やり方を変えながら事業を継続していく支援など、実際にできることを探していきたい。

部会長：刈谷市ではコロナ対策本部があり、そこで情報集約がされている。どんな支援が必要かをそこへ挙げることで検討される可能性があると考え、具体的にアンケートで把握しようとした。今回のアンケートは10月時点の結果だが、事態はまた変化し、さらに困っている団体も出てきていると思う。活動についての悩みや困りごとを聞く場が重要であり、それを団体にわかるように示せるとよい。そうした情報がセンターで集約されることはあるか。

事務局：集約ではないが、センターや市民協働課では相談を受けている。

委員：相談の場は本当に必要。団体活動を継続するか中止するかは団体が決断することだが、決断すらできない状況である。「相談を受けられる。駆け込んでよい」ということを再度発信してもらえるとよい。事業は3月締めなので、今後の活動をどうするのか、相談に乗っていただけると勇気もらえる。

部会長：「センターで相談を受け付けていますよ」とわかるように伝えることが大事だが、どの程度の頻度で登録団体に情報発信しているか。団体は年度末に相談したい状況があるかもしれない。

事務局：情報誌は年4回で、次回の発送は4月になる。周知のタイミングは、HPはすぐにできるが、その他の発信等は、センターと相談する。

## ■コロナの影響が深刻な市民への支援

部会長：コロナの影響で、子ども・高齢者・障害者などへのストレスや困りごとが相当増えていると思う。子どもの自殺が増え、女性の就業・ひとり親の経済状況等がひっ迫する中で、見守りの活動は全般に縮小している。結果、市民の困りごとへの支援のギャップが広がっている。市民の生活課題を対策本部などで聞きとって、その情報を市民活動団体に反映できたらと思うが、市民協働課にはそうした情報が入ってくるか。また、コロナ禍での市民生活の状況を情報集約してほしいと、対策本部に市民協働課から提案できるか。

事務局：対策本部である危機管理課がさまざまな情報の集約・発信をしているが、範囲は多岐にわたる。対策は、それぞれの担当課が進めている。市民協働課は、市民活動団体の困りごとを届けていくことはできるが、それ以上は難しい。

部会長：現状はそうだと思うが、市民活動は市民生活全般に関わるので、市民協働課は全体的な情報集約ができるよう働きかけることを期待したい。

委員：活動分野ごとに分析すると、分野ごとの活動の困りごとがわかってくると思う。

事務局：クロス集計をすれば整理できる。対策を打つための参考情報が出てくるかもしれない。

## (2) まちコのチーム編成について

### <事務局からの説明骨子(資料p2～、資料2-1,2-2を基に)>

- まちコ活動の活性化の取り組みや、つなぎの学び舎・実践編の再編等により、まちコの活動が多様化・専門化してきている。また、先のアンケート結果から、広報やオンラインに関するサポートのニーズが高かったことを踏まえ、「まちコニュースの発行」「オンライン会議等運営支援」を活動案として提案する。これらも含め、活動内容を3つにチーム分けすることを進めたい。これにより、まちコの活動の自主性をさらに高め、活性化することも図る。
- 本人に希望を募り、1つ以上のチームに所属してもらおう。チームリーダーは、メンバーから選出し、

世話人の方にもオブザーバーとして支援していただきたい。

- ・チーム編成は、(1) ファシリチーム（世話人：守随さん）、(2) オンラインチーム（同：大野さん）、(3) 広報チーム（同：塚本さん）を考えている。広報チームには、資料 2-1、2-2 のような「まちコニュース」の作成を考えている。2-2 は、日本女性会議に関連して作成された「ミライクニュース」で、このようにまちコ自身が楽しみながら作成していただけるとよいと考えている。
- ・まちコの個人的な活動を報告し合う「成果報告会」を年度末に開催し、各々が行ってきた実績を共有・可視化する。

## ＜質疑応答＞

### ■ オンラインチームと広報チーム

- 委員：異存ない。オンライン化は今後も進んでいく。ウェブサイトや SNS はこれまでも利用されてきたが、ここへきて、直接顔を見てコミュニケーションするオンライン会議、ウェブセミナー、ハイブリッドの形態（会場＋オンライン参加の会議）等が出てきた。そのノウハウを仕入れた人は多いと思われるので、お手伝いしたいと思う。
- 委員：広報チームも SNS やウェブは活用していくことになると思うが、オンラインチームとの差異は、団体の支援だけでなく、市民に広く情報発信する位置づけかなと感じたが、その認識でよいか。オンラインチームとのすみ分けは、どのように考えているか。
- 事務局：オンラインチームは、オンライン発信の運営支援で、広報チームは、情報発信の仕方を考えるイメージ。また、アンケートでは、コロナ禍で活動の継続や新たな運営の工夫をどうしたらよいか悩んでいる団体も多かった。参考になる活動例をまちコが取材し発信して、活動の知恵が団体間で循環することも期待したい。詳細は、まちコ世話人会で相談していきたい。
- 委員：オンラインチームはハード面の支援、広報チームはソフト・コンテンツ面の支援と思うが、おそらくすみ分けをしつつも、連携しながら進めることになるだろう。
- 事務局：まちコも 1 チームと限らないので、連携・相乗効果が出てくるといいと思う。
- 部会長：広報チームは、まちコからの発信という意味合いか。
- 事務局：そうである。ファンドレポートもよい評価をいただいた。日本女性会議でも市民がレポートを作ったことで、親しみやすくなった効果もあった。「今、困っている」「こんな工夫ができる」といった情報が、団体の参考になればという考えから、まちコニュースを提案させていただいた。

### ■ 声を集める重要さ

- 委員：活動ができなくなっていく不安がある中、「声を集める」ことが非常に重要。リアルタイムで団体の声を集めて、その時に必要な支援ができるとよい。紙ベースもよいが、時間がかかるので、これを機会に代表者のメールをしっかりと確認して声を拾う仕組みができるとよい。状況は日々変わるので、発信よりむしろ声を集める方針をもって、打ち手が後手に回らないようにしたい。
- 事務局：タイムリーさでは充分でないかもしれないが、まちコニュースでも、声を聴いていくことはできる。また、センターでも色々な声を聞かせてくださいと発信していく。できる範囲で取り組んでいきたい。
- 委員：声を集めるという点で、団体の困りごとはセンターに相談が寄せられる。その点で、センターの相談カルテを共有させていただくとよい。また、オンラインチームでは、予約なしでズーム相談できるような仕組みも検討していきたい。
- 部会長：2月7日にオンラインでしゃべり場が開かれるが、このように、オンラインで話せる機会を月 1 等のペースで話し合う場が設けられると、状況を語り合うこともできるのではないかと。
- 委員：しゃべり場から派生した有志による場で、「刈谷のまちを良くし隊」というのがある。月 1 回、夜間にセンターに集まって語り合う。今年はコロナの影響で 1 回しか集まれていないが、オン

ラインで行うのも可能かもしれないので、仲間に相談してみる。

部会長：ご検討いただければ。オンラインも活用して、声を集める場が定期的に設けられるとよい。

### ■チーム制の運営、まちコへの伝え方

委員：チーム編成すると、チームごとに会議をすることになるか。

事務局：世話人会議で相談して決めたい。

委員：まちコにとって「どのチームに入ろうか」というのがわかりにくい。特に、定例会に出ていない方には、イメージがつかみにくく、どこにも所属できないのでは、という印象を持ちやすい。チームに所属したいと思えるようなアピールを工夫していただくとよい。

事務局：活動の様子を記載する等、伝え方を工夫したい。

部会長：例えば、オンラインチームだと「自分はできないから」と引いてしまうことがないように。できないと入れないわけではなく「一緒に勉強をしながらやっていきましょう」というようなリードを入れられるとよい。

事務局：興味があり、自分の活動に活かしたいという動機で入ってもらってもよい。また、3チーム以外の活動としてもイベントの企画運営支援等もある。スキルを持っているというよりも、活動と一緒に考えていくというスタンスを大切にしたい。

部会長：出てきた意見を参考に、まちコの人に伝える時は、丁寧にご準備いただけるとよい。

委員：アンケートの中のp7の問4で、「文化祭の代わりにパンフレットを作成して配布」というのは、私たちの西部地区で行った。「刈谷西部・おうちで文化祭」と題し、皆さんが作られた作品の写真を撮って冊子を作った。よい反響で、今後もやってほしいと言われている。

部会長：「まちコニュース」でご紹介いただけるとよい事例だと感じた。

## 3 その他

- ・第2回刈谷市共存・協働のまちづくり推進委員会は、平成3年3月17日（水）13：30から。
- ・会場は401・402としているが、コロナの状況によってオンラインやハイブリッドになるかもしれない。また、ご連絡する。

以上